

令和7年度後期 全学共通科目 授業アンケート

作成部局 国際高等教育院
回答期間 2026.01.07-2026.02.11
結果の公開期間 2026.03.23-2026.04.30

科目名	区分	開講期	単位
月2 知恵すること—情報の視点から生命と社会の本質を考える (趙 亮)	大学院横断教育科目群	後期	2

対象者数：12人 回答者数：5人 回答率：41.7%

全学共通科目 授業アンケート

このアンケートは、授業について皆さんの率直なご意見を聴き、授業・教育環境の改善に役立てるものです。集計結果については、分析のうえ匿名で担当教員に伝えますので、正直に、できるだけ建設的で責任ある回答をしてください。アンケート集計結果は、3/23（月）～4/30（木）にアンケートシステム上で公開します。皆さんのご意見が、教育の質を高める大きな力となります。授業に関する率直な評価と具体的かつ前向きなご意見をお聞かせください。

シラバス

Q1 シラバスの情報と実際の授業が異なっていた場合、そのことについて教員から十分な説明がありましたか？

対象者数：12人 回答者数：5人 回答率：41.7%

設問形式 ラジオボタン

1 ①十分あった 4票 / 80%	2 ②ややあった 0票 / 0%	3 ③あまりなかった 0票 / 0%
4 ④全くなかった 0票 / 0%	5 ⑤わからない（判断できない） 0票 / 0%	6 ⑥該当なし（シラバス通りに授業は実施された） 1票 / 20%
全5票		
1 80%		6 20%

学習時間

Q2 この授業に出席した割合を記載してください。

対象者数：12人 回答者数：5人 回答率：41.7%

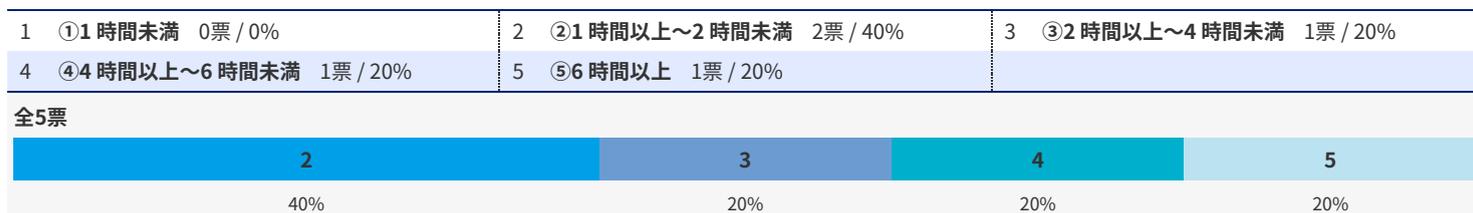
設問形式 ラジオボタン

1 ①9割以上出席 4票 / 80%	2 ②7割以上～9割未満出席 1票 / 20%	3 ③5割以上～7割未満出席 0票 / 0%
4 ④2割以上～5割未満出席 0票 / 0%	5 ⑤2割未満出席 0票 / 0%	
全5票		
1 80%		2 20%

Q3 この授業に係る予習・復習、宿題・課題等を行った合計の時間（90分授業1回当たりの平均値）を記載してください。

対象者数：12人 回答者数：5人 回答率：41.7%

設問形式 ラジオボタン



授業の内容・方法等

Q4 授業内容を理解しやすいように教え方に工夫が感じられましたか？

対象者数：12人 回答者数：5人 回答率：41.7%

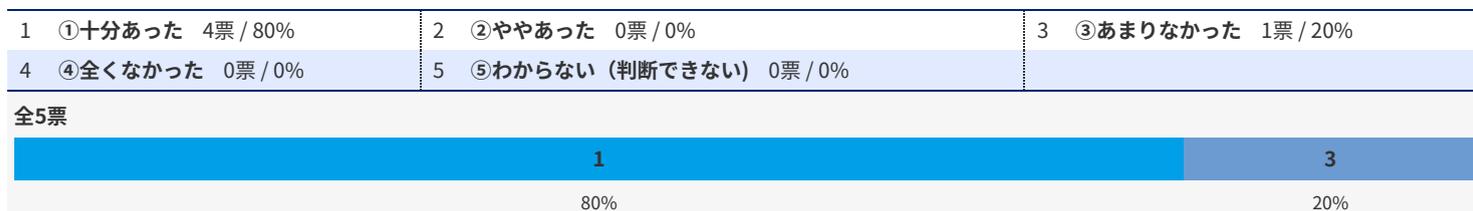
設問形式 ラジオボタン



Q5 予習・復習等の授業時間外に行う学習について説明がありましたか？

対象者数：12人 回答者数：5人 回答率：41.7%

設問形式 ラジオボタン



Q6 授業内外における質問等に対して、教員からの適切なフィードバックがありましたか？

対象者数：12人 回答者数：5人 回答率：41.7%

設問形式 ラジオボタン

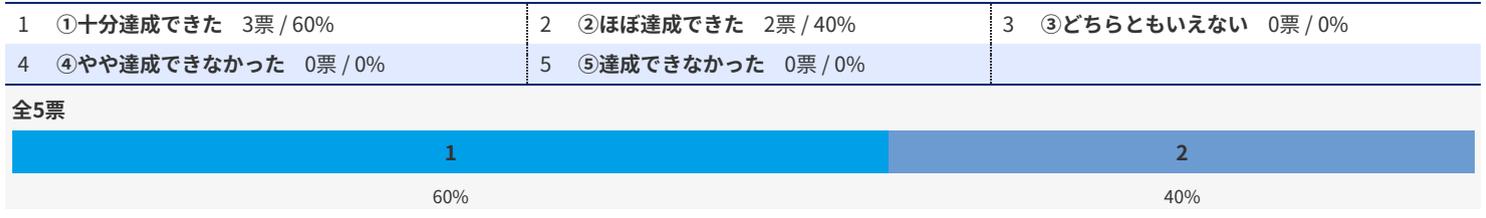


「学習の達成度」に関する学生の自己評価

Q7 この授業の到達目標を達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

対象者数：12人 回答者数：5人 回答率：41.7%

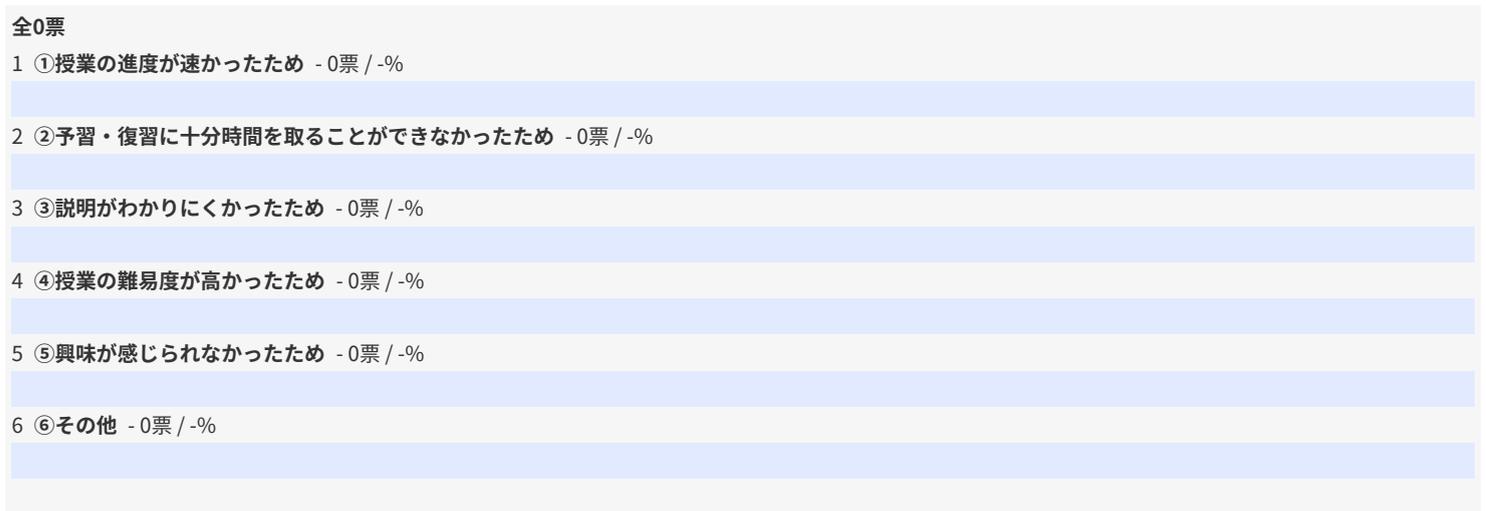
設問形式 ラジオボタン



Q8 Q7で授業の到達目標を『④やや達成できなかった』又は『⑤達成できなかった』と回答した場合は、達成できなかった理由を、以下より全て選択してください（複数選択可）

対象者数：12人 回答者数：0人 回答率：0.0%

設問形式 チェックボックス



Q9 効果的だった学習活動（例：予習・復習、グループ討論又は発表など）があれば、自由に記載してください。

対象者数：12人 回答者数：2人 回答率：16.7%

設問形式 テキスト

- 授業の質が高くその予習復習で得られたものも多いが、2回の発表で、先生のみならず多種多様なバックグラウンドや専門性を持つ学生での議論があり、多くの発見があり誠に有意義であった。
- 大局的な視点から論理的に展開される講義は非常に学術的で、大学ならではの学びを感じました。得た知見をいかに実務へ落とし込むかという視点も得られ、課題を通じてビジネスへの応用を考える良い機会となりました。

Q10 この授業を通じて身についたものを、以下より全て選択してください（複数選択可）

対象者数：12人 回答者数：5人 回答率：41.7%

設問形式 チェックボックス

全15票

1 ①専門分野に関する知識・理解 - 2票 / 40%

2 ②幅広い知識、ものの見方 - 5票 / 100%

3 ③問題を見つけて解決方法を考える力 - 3票 / 60%

4 ④論理的に文章を書く力 - 2票 / 40%

5 ⑤人に分かりやすく話す力 - 3票 / 60%

6 ⑥他者と協働する力 - 0票 / 0%

その他の回答

- 多様な専門性を学際的にまとめ、理解、議論する力

授業全般

Q11 この授業の良かった点を自由に記載してください。

対象者数：12人 回答者数：4人 回答率：33.3%

設問形式 テキスト

- 様々なバックグラウンドをもつ生徒と共に講義を受けディスカッションできたこと
- 授業内容をそれぞれの専門分野に当てはめた発表内容が興味深かった。
- 生命論や人類とAIという、我々の世代に最も必要となろうテーマについて、趙先生が学際的に読み解かれた視座、視野を質高い講義でご共有いただき、学問としての学びはもちろんのこと、今後の人生に最も大きな影響を受けた授業となった。気づきや学びをインプットだけでは終わらせずに、個々の専門性に落とし込んだプレゼンテーションを行う機会を中間と最終とでいただけ、先生からの指導、多様な専門性を持つ学生との議論の機会を持てたことは素晴らしく、研究テーマにおける大きな発見や、発展に繋がる特別な時間となった。
- 仕事では「AIをいかに活用し、成果を出すか」という実利的な側面ばかりに目が向きがちですが、本講義ではそうした日常から離れ、AIの本質を哲学的に深く掘り下げる貴重な時間を過ごせました。特に「エントロピー」という概念は、普通に社会人生活を送っているだけでは絶対に出会うことのない考え方であり、大学というアカデミックな場ならではの視点に強い衝撃を受けました。物事を大局的に捉え、論理を積み上げていく講義を通じて、自身の思考がいかに目先の効率に縛られていたかを痛感しました。この哲学的な学びを、単なる教養で終わらせず、いかにビジネスの現場へ落とし込んでいくか。それを模索することが企業人としての新たな役割だと感じており、今回の課題は実務と知を繋ぐ最高のきっかけとなりました。

Q12 この授業の改善してほしい点を自由に記載してください。

対象者数：12人 回答者数：2人 回答率：16.7%

設問形式 テキスト

- 授業内容としては特にありません。学際的なコミュニティでしたので、学生同士の交流（例えば昼食会など）を企画すればよかったという自己への反省はあります。
- 本質的な議論をいかに技術の設計思想や実務の現場へ落とし込むかという点については、さらなる接続点を探りたいとも感じました。今後想定できる具体的な活用事例など……。哲学的な知見と具体的な技術論がのつながりのヒントがあると、よりイメージが深まり、ビジネスへの還元も明確になると考えています。……ただ、まさにそこを自分なりに繋ぎ合わせ、深く考えるために大学院に来ているので、独り言だと思ってください。

担当教員追加設問

Q13 担当教員からこのアンケートに追加する質問が示された場合は、この欄に回答してください。

対象者数：12人 回答者数：0人 回答率：0.0%

設問形式 テキスト

- この設問に対する回答はありませんでした。